

いちのみやの芸術文化

一宮月並市

高所小毎月
三ハの市主ら
つとををの街
人寄おきり
と〜う宿のるあ
まび街 雑鼓の
むらまゝし 竹のり
お交易まらま
夥〜数万人の
み〜あ 彼南成
市碑記のつら
臨安寺の難い
り〜や〜思いとく
り

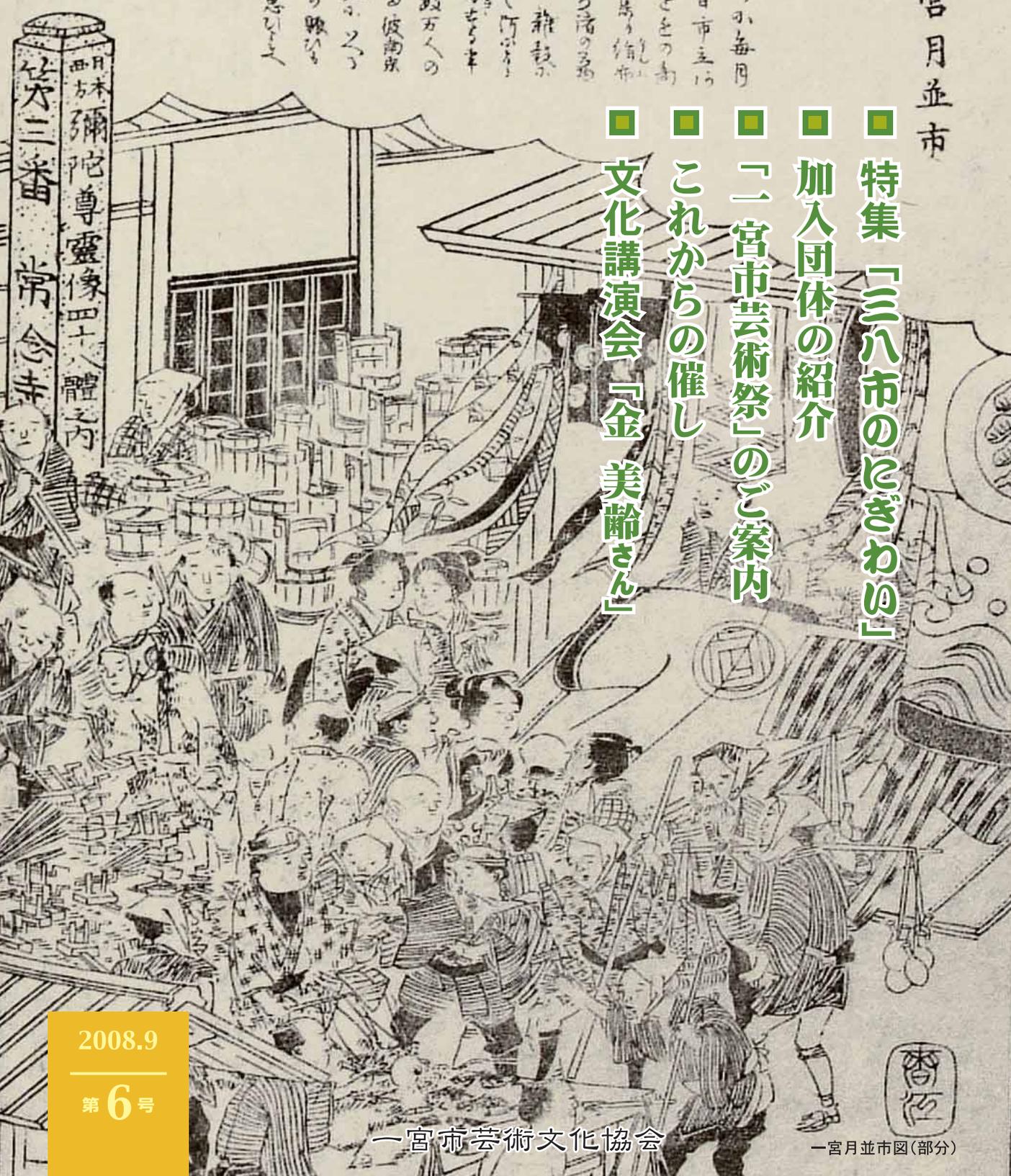
■ 特集 「三ハ市のにぎわい」

■ 加入団体の紹介

■ 「二宮市芸術祭」のご案内

■ これからの催し

■ 文化講演会 「金 美齡さん」



2008.9

第6号

一宮市芸術文化協会

一宮月並市図(部分)

「一宮市」には、先人の残した様々な文化があります。私たちのまちの「身近な文化」をご紹介します。

三八市のときわめ

尾張藩の公認市場

江戸時代になると、徳川幕府による度量衡や貨幣の統一、交通システムの整備等によって、商業の発展が促進されました。また幕府及び各藩は、領内の商品流通を掌握するため、城下町を中心とした流通システム（領主的商品流通）を確立しようとします。尾張藩も城下町が清須から名古屋に移動した時、下小田井の青物市や熱田の魚市を整備し、領主的商品流通を確立しようとしました。

しかし、その後の農業技術の進歩や貨幣経済の浸透などにより、農村内においても商品の流通に関与する者たち（在方商人）が活躍するようになります。そしてこれらに在方商人の活躍は、領主的商品流通を脅かすまでに成長していきました。こうした状況の中、尾張藩では領内の市場を公認する事によって、商品



流通の再編をはかろうとしたと思われる。その表れの一つが、享保年間に集中した公認市場の開市であったと考えられます。尾張藩はこの時期、一宮の三八市、岩倉、刈安賀、起など18ヶ所で市場を公認しました(表1)。

三八市の開市と活躍する在方商人

享保12年(1727)12月18日に開市した三八市は、当初小規模なものでした。しかし、時を経るにしたがって規模は拡大し、尾張西部の中心的な市場の一つにまで成長しました。天保13年(1842)8月吉日付の「一宮六斎市商人書上下帳」(『一宮市史下巻』所収)によれば、500以上の店が真清田神社の門前に軒をつらね、生活必需品や綿業関係商品な

◀(表1) 尾張藩内の公認市場

市場が許可された年	市場の場所
古来より	津島、神戸、上有地、竹ヶ鼻、中津川
承応2年(1653)	墨俣(不繁昌のため休止)
寛文7年(1667)	小牧(六斎市は古来より)
天和2年(1682)	下小田井(市はそれより以前に始まるか)
元禄元年(1688)	黒田
享保3年(1718)	五軒家新田
12年(1727)	一宮、岩倉
13年(1728)	刈安賀
14年(1729)	兼山再興(古来よりあったが中絶していた)
15年(1730)	須成
16年(1731)	起、小折、内津、大矢田、師崎、豊場、清洲内北市場、木田、稲葉、太田
17年(1732)	栗笠、西大高
寛保3年(1743)	古知野
不明	今尾、駒塚
合計	30ヶ所

「地方古義」(『名古屋叢書続編』第3巻所収)より作成

ど多彩な品物が売買されていた様子を知る事ができます(表2)。また、『尾張名所図会』に描かれている「一宮月並市」からも、往時の三八市の盛況振りがよくわかります。

在方商人によって、三八市で扱われる商品は、尾張のみならず周辺の国々にまでおよびものもあつたようです。

◀(表2) 商品別統計表

古手	60	つけ木	6	桶や	3	あわやき	1
糸売買	36	履物	5	旅籠茶店	2	提灯	1
綿	29	茶	5	うどん	2	柄杓	1
いさば	26	煮売	5	うどん打	2	玉子や	1
味噌溜り	25	小道具	5	そうめん	2	砂糖や	1
太物小切	19	くすり	5	傘	2	問屋場	1
煙草	16	竹車	5	鍛冶	2	陰陽師	1
菓子	16	果物	4	ふるいとをし	2	表具や	1
小間物	14	種物	4	髪結	2	質屋	1
魚や	13	金物	4	鍋や	2	鑄掛	1
古道具	12	雑物	4	医師	2	かめや	1
米雑穀肥料	12	草履わらし	4	機屋材料	2	古帳面	1
ねり油く	11	木綿	3	棒や	2	弦や	1
ろくろ	10	うなぎ	3	古綿	1	染物	1
油	10	ところてん	3	鳥屋	1	桝物	1
紙	10	乾物	3	料理や	1	りうこ	1
酒	9	塩	3	すしや	1	縫や	1
青物	8	薪炭	3	でんがく	1	石や	1
瀬戸物	7	織屋	3	あま酒	1	他に商品不明店	40

(75種目511店、うち商品不明店40店)

『一宮市史下巻』より

三八市でおきた事件

三八市で起こった事件の一つを、一宮市博物館で所蔵する宮地花池木村家文書の中から紹介します。事件は天保6年(1835)7月

に起こり、要約すると次のようになります。

宮地花池村の利左衛門は、やや病身のため、農業の合間に古着商いを行っていました。7月8日の三八市で古単物を代銀壹匁七歩で売っていたのですが、なかなか売れないため値引きをします。すると、この古単物を銭百五十文で持つて行くという女性(一宮村下町藤助の母)が現れます。しかし、その値段では売りがねるため、残金を後日受け取る事として、その古単物はとりあえず藤助の母が引き取る事になりました。

後日、利左衛門は藤助宅を訪れ、残金の支払いについて尋ねたところ、病のため寝ていた藤助が言うには、

残金は無いとのこと。

そんな訳は無いと利左衛門は藤助と口論になりました。すると突然、藤助は病床から飛び起きます。

驚いた利左衛門は藤助の母に背後から無理やり引き抱えられ、弟に竹・ほうきで叩き伏せられます。その結果、利左衛門は頭や顔に大小の傷を負ってしまいました。人々が多く訪れる三八市のような場所では、現代にも通ずるような、こつした事件や事故が起こったようです。

今回ご紹介できなかった三八市の歴史などについて、一宮市博物館では10月11日(土)から11月24日(月・振休)まで、企画展「一宮三八市のにぎわい」で紹介します。ぜひ来館ください。(一宮市博物館学芸員 坪内淳二)

◀三八市制札



《お詫びと訂正》6月に発行しました第5号3ページの表記に誤りがありました。ここにお詫び申し上げますとともに訂正させていただきます。

誤・寛大臣織 ↓ 正・寛大寺織

当会の会員は、全て師範取得者で構成されています。皆さんに聞くと習い始めの頃には、素敵な作品が仕上がることに満足し、師範の資格を取得することなど考えもしなかったと言われます。ところが、もっと良い作品を作ろうと頑張り、より高度な技術を習得し、自分自身の勉強を修められました。初めてアーティフィシャルフラワー（以下アートフラワー）を学ぼうとする人達を指導するため、その研修も積極的に受けるようになりました。

私自身、色の使い方、造形の工夫等は、絵画、工芸、デザイン画そして写真等の作品からそのヒントを得ることが多く、出来るだけ展示会を見に行くように心がけています。また、日頃から植物園やフラワーショップ等で観察したり、植物図鑑で研究をし、絶滅危惧種にも作品の対象を広げています。

ただ、残念なことに、最近はこのような手間のかかることが敬遠される風潮があるのではと感じています。面倒だとか、細かいからだとか、その様なことを言っていたら良い物はいずれ無くなってしまわないかと心配しています。

日本人は、季節の移ろいやその時々自然に親しむことに喜びを感じ、独自の文化を育んできました。また、手先が器用であったことも現在の日本のいろいろな文化を作り上げてきた要素ではないかと思います。アートフラワーもそんな日本人にピッタリなものだと思います。

素敵な作品を作上げた時の喜びをもっと多くの方に知っていただきたいと願っています。これからも美しい花々との会話を大切にしながら、会員の皆さんと共に学んでいきたいと考えています。



◀ 展示会場

【問合せ先】柳原 たづ子 ☎51-8017

琴稀会は、平成5年に結成され、今年で15年を迎えました。

ソプラノ、アルト、テナー、ベースのアンサンブルで大正琴の音色を味わいながら、童謡唱歌、演歌、ポップス等幅広いジャンルの曲をみんなで楽しく演奏しています。

大正琴の楽譜はとても簡単で難しい音符ではなく、大きな数字で表されていますので琴本体にある同じ数字のボタンを押すだけです。見やすく分かりやすいので、誰にでも最初から演奏することが出来ます。

私達の会は、下は中学生から、上は70歳代の方までが様々な理由で参加されています。例えば、お友達が欲しい、指先を使うのでボケ防止に役立たい、今の若さを保ちたい、大正琴の音色に魅了された等、年齢理由に関係なく一緒に大正琴を楽しんでいます。一人で何かを続けることは難しくても、仲間と一緒にならお互いに励まし合うことで続けられます。

練習した成果は、福祉の集いや老人保健施設の

慰問など、ボランティア活動で発揮して、地域の皆さんと交流を図り、多くの方に喜んでいただき、その笑顔がまた次への励みとなっています。いつまでも健康ではつらつと過ごすためにも大正琴を始めてみませんか。

練習日については、毎週金曜日と土曜日の午後1時より尾西文化広場で行っています。

是非、この楽しさを体験してみてください。皆さんのご参加をお待ちしています。



◀ ふれあいの集い

【問合せ先】不破 清子 ☎62-3023

一宮市の美術部門における日本画（水墨画を除く）洋画等のレベルは、諸先生、諸先輩方のご指導ご尽力により、人口38万人の都市に相応しく相当高い水準に位置していると思います。

このような状況に反して、残念ながら水墨画のレベルはやや精彩に乏しい感じが致してなりません。

桃墨会は今年で第10回展を迎えますが、一昨年より一宮市芸術文化協会の日本画部門に水墨画の団体として参加させていただいています。

水墨画はややもするといまだに手本画から習うものと思ってみえる方が多いのではないのでしょうか。日本古来の伝統芸術であり、手本画から形のみを求めるよりも伝統を踏まえ、自然の心を描くという原点を重視しながら現代の水墨画を創出して行くべきと私は思っています。

水墨画の盛んな都市を見てみますと市・県の単位で水墨画協会を設立し、行政と一体となってその普及発展に尽力されているのが実情です。一宮市の現状においてはこのような状況には程遠く、

今後行政との協調のもとに各水墨画団体間の連携が進められなければ、一宮市における水墨画の展望は10年一日の如しで厳しいと考えます。

桃墨会は、こうした地域の水墨画の現状を踏まえながら、会員一人ひとりが水墨画をとおして新しい自分を見つめなおし、多くの仲間と共に励ましあい楽しんでいるグループです。

〈年間行事〉日帰り、一泊のスケッチ旅行
桃墨会展ほか他展への出品、研修会等。



▲翠水舎墨画展鑑賞研修会
(銀座洋協ホールにて)

【問合せ先】丹羽 桃慶 ☎76-6387

尾西牡丹会は、現在も会の講師である岡田波流夫先生が昭和20年10月に俳句同好の方々に呼びかけられ発足しました。以来現在まで63年続いています。

当時の起町は木曾川の港町であり、織物業が大変盛んでいわゆるガチャマン時代でしたが、伝統文化を大切に作る気風があり、それが今でも受け継がれているように思います。

聞くところによりますと加藤霞村先生はじめ、星野立子先生、大橋桜坡子先生、鈴鹿野風呂先生、国松ゆたか先生、そして太田嗟先生等著名な俳人の方々も起町へおいでになったそうです。

当会は、現在も岡田先生のご指導のもと、毎月第2土曜日、午後1時30分より生涯学習センターにて10句持ち寄りの句会を開いています。句歴の新しい方の銜いのない新鮮な句に大きな感動を覚え、初心に帰らなければ…と反省することもあります。初心者の方でももう少し深く俳句を学びたいと思われる方は、是非尾西牡丹会の句会を見学に来てください。

また、毎年行われます尾西俳句大会、春と秋の

吟行会の立案、実行には尾西牡丹会の役員が協力させていただいています。吟行地における歴史的、文化的な予備知識も道中のバスの中にて岡田先生が分かりやすく説明されますので、俳句を作る際に非常に役立っています。

掲載の写真は、平成20年5月に実施した吟行会の写真です。

彦根城400年の歴史に触れ、玄宮園の庭園の素晴らしさに参加者全員大満足された良いお顔の写真です。



▲尾西春の吟行会

【問合せ先】栗山 千代子 ☎62-4754

一宮市芸術祭

いよいよ天高く馬肥ゆる秋となりました。
 あなたの秋は「芸術」？「読書」？「スポーツ」？それとも「食欲」でしょうか。
 今年の「一宮市芸術祭」は次のとおり開催されます。
 あなたも目と心の保養にぜひお出かけください。

行事	期日	時間	開催場所	入場料 参加料等	団体
2008 一宮美術作家新展	8月30日(土) ～9月15日(祝)	AM9:30～ PM5:00	一宮市博物館	一宮市博物館 常設展観覧料 200円	一宮美術作家協会
楽しく描こう会 水彩画展	9月2日(火) ～7日(日)	AM9:00～ PM5:00 (7日はPM3:30まで)	尾西歴史民俗 資料館	入場無料	楽しく描こう会
第5回 尾西絵画・写真連合展	9月10日(水) ～15日(祝)	AM9:00～ PM5:00 (15日はPM4:30まで)	三岸節子 記念美術館		尾西美術連合
花千会押花教室 作品発表会	9月12日(金) ～15日(祝)	AM9:00～ PM5:00 (15日はPM4:00まで)			花千会
伝えたい、 今日から明日へ。	9月18日(木) ～28日(日)	AM9:30～ PM5:00	一宮市博物館	一宮市博物館 常設展観覧料 200円	一宮写真協会
第44回麗筆会展	9月19日(金) ～21日(日)	AM10:00～ PM5:00 (21日はPM4:00まで)	一宮スポーツ 文化センター	入場無料	麗筆会
尾西短歌大会	9月27日(土)	PM1:00～ PM4:30	尾西生涯 学習センター	500円	尾西短歌会会 青の樹短歌会
市民茶会	10月5日(日)	AM10:00～ PM3:00	真清田神社	2席 1,500円	一宮茶道協会
土への触'08	10月10日(金) ～13日(祝)	AM9:00～PM5:00 (10日AM10:00～、 13日PM4:00まで)	一宮スポーツ 文化センター	入場無料	楽陶会
狂俳大会	10月11日(土)	PM1:00～ PM5:00	葉栗公民館	1,000円	一宮狂俳壇連盟
いちのみや文芸2008 発刊	10月18日(土)	/		1冊 800円 随想・随筆、現代詩、漢詩、短歌、俳句、川柳、狂俳の市民文芸集	
文化講演会		PM1:00～ PM2:30	尾西市民会館	入場無料	講師：金美齢さん (JET日本語学校理事長)
尾西俳句大会	10月19日(日)	AM10:30～ PM4:30	尾西生涯 学習センター	1,000円	尾西俳句会
秋季謡曲大会	10月26日(日)	AM9:30～ PM4:30	産業体育館	入場無料	一宮謡曲同好会
一宮市民華道展	11月1日(土) ～2日(日)	AM10:00～ PM4:00 (2日はPM3:45まで)	一宮スポーツ 文化センター		一宮華道連盟

行事	期日	時間	開催場所	入場料 参加料等	団体
一宮吟剣詩舞道大会	11月2日(日)	AM9:20~ PM4:30	一宮スポーツ 文化センター	入場無料	一宮吟剣詩舞協会
俳句大会		AM11:00~ PM4:30		800円	一宮俳句協会
第56回 合同舞踊公演		AM11:30~ PM3:30	一宮市民会館	1,000円	一宮舞踊協会
短歌大会	11月9日(日)	PM1:00~ PM4:30	一宮スポーツ 文化センター	500円	真清短歌会
一宮現代詩祭		PM1:00~ PM4:00			一宮現代詩協会
第36回一宮音楽家協会 定期演奏会		PM2:00~ PM4:00	尾西市民会館	1,000円	一宮音楽家協会
一宮茶道連盟茶会	11月16日(日)	AM9:00~ PM3:00	妙興寺	8,000円	一宮茶道連盟
第14回一宮市民音楽会 「第九演奏会」 (創立20周年記念)		PM2:00~ PM4:00	一宮市民会館	一般2,000円 学生1,000円	一宮第九をうたう会
第54回 中部日本書道会 一宮支部展	11月22日(土)	PM1:00~ PM4:00	一宮スポーツ 文化センター		(社)中部日本書道会 一宮支部
第37回 一宮支部学生書道展	~23日(祝)	AM10:00~ PM4:00			
三曲演奏会	11月23日(祝)	AM11:00~ PM4:00			
一宮映像クラブ 作品発表会		PM6:00~ PM9:00	一宮市民会館	一宮映像クラブ	
尾西芸能祭	11月23日(祝) ~24日(月・振替)	PM0:00~ PM4:00	尾西市民会館	入場無料	尾西芸能祭実行委員会
尾西華道展・お茶会		AM10:00~ PM4:00 (お茶会はPM3:00まで)			尾西華道展・お茶会 実行委員会
水絵の会展	11月26日(水) ~30日(日)	AM9:00~PM5:00 (26日PM1:00~、 30日PM4:30まで)	三岸節子 記念美術館		水絵の会
ガリバンバン グループ展	11月26日(水) ~12月1日(月)	AM10:00~ PM5:00 (1日はPM4:00まで)	ギャラリー るぼ		尾西ガリバンバンの会
一宮合唱祭	11月30日(日)	PM0:30~ PM4:30	尾西市民会館		一宮合唱協会
一宮市民吹奏楽団 第33回定期演奏会		PM1:30~ PM3:30	一宮市民会館	前売400円 当日500円	一宮市民吹奏楽団
女声合唱団蓮 第2回演奏会	12月14日(日)	PM2:00~ PM4:00	尾西グリーン プラザ	1,000円	女声合唱団蓮

文化情報



「記憶の館」 夫馬 勲

《市および市内公共施設の催し》

一宮市博物館
 ☎(46)3215

企画展「一宮三八市のにぎわい」

日時 ● 10月11日(土)～11月24日(月) (月曜祭)
 午前9時30分～午後5時
 (入館は午後4時30分まで、
 月曜休館、以下同じ)

内容 ● かつて真清田神社の門前で
 行われた三八市に集まった
 品々の流通、生産などに関
 する歴史などを紹介。

観覧料 ● 一般 200円
 高大生 100円
 小中生 50円
 市内小中生・65歳以上無

三岸節子記念美術館
 ☎(63)2892

特別展開館10周年記念「生誕10

0年記念 桜井浜江展」

企画展「2008一宮市現代作家
 美術秀選展」
 料 (以下同じ)
 日時 ● 12月6日(土)～21日(日)
 午前9時30分～午後5時
 内容 ● 今年度の一宮市美術展市長
 賞受賞者、依頼出品者、一
 宮美術作家協会、一宮書道
 協会、一宮写真協会推薦者
 の作品を展示。

日時 ● 10月4日(土)～11月16日(日)
 午前9時～午後5時(入館
 は午後4時30分まで、月曜

尾西歴史民俗資料館
 ☎(62)9711

特別展「花子とロダン」

内容 ● 壮大なスケールの油彩画を
 描き続けた桜井浜江の展覧
 会。生命の本質へと迫る作
 品の数々を展示。
 休館、(以下同じ)
 観覧料 ● 一般 500円
 高大生 300円
 小中生 200円
 市内小中生・65歳以上無
 料
 常設展「三岸節子 赤の世界」
 日時 ● 11月18日(火)～1月25日(日)
 午前9時～午後5時
 内容 ● 三岸節子の作品の中でも、
 とりわけ印象的な赤色を用
 いた作品を中心に展示。

日時 ● 10月4日(土)～12月7日(日)
 午前9時～午後5時(入館
 は午後4時30分まで、月曜
 休館)

尾西図書館
 ☎(62)8191

「読み聞かせ講習会」

日時 ● 10月30日～11月27日の毎週
 木曜日、午後1時30分～午
 後3時30分

内容 ● 絵本や紙芝居の読み方につ
 いての講習会。
 参加料 ● 無料

《県文化協会連合会の催し》

「県文連美術展」
 会期 ● 9月30日(火)～10月5日(日)
 会場 ● 愛知県美術館ギャラリー
 入場料 ● 500円(前売400円)

内容 ● オーギュスト・ロダンのモ
 デルになった唯一の日本人
 女性一宮市上祖父江出身の
 「花子」(本名太田ひさ)
 の生涯を紹介。
 観覧料 ● 無料
 第8回もみじまつり
 日時 ● 11月22日(土)・23日(日)
 午前10時～午後4時
 内容 ● 旧林家住宅を会場にお茶会
 や山野草展、箏の演奏など
 を2日間にわたり催します。
 入場料 ● 無料(お茶会300円)

中学生以下無料

※生涯学習課（木曾川庁舎）で前売りしています。

「愛知県民茶会」

期日 ● 10月26日(日)

会場 ● グリーンパレス春日井他

設席 ● 一宮茶道連盟他

茶券 ● 前売券800円（2席）

当日券500円（1席）

※生涯学習課で前売りしています。

「県文連西尾張部芸能大会」

期日 ● 12月7日(日)

会場 ● 美和町文化会館

入場料 ● 無料

出演団体 ● 清の琴・ロマンスハー

プ他



『市民川柳教室』

【問合せ先】一宮川柳社

☎(45)8045

日時 ▼ 9月28日(日)・10月26日(日)・

11月30日(日)・12月21日(日)

午後1時～

会場 ▼ 一宮スポーツ文化センター

内容 ▼ 自由吟および課題吟を一宮川柳社委員が指導します。

(初心者歓迎)

参加料 ▼ 無料

申込み ▼ 当日直接会場

『市民俳句教室』

【問合せ先】一宮市民俳句教室

☎(73)5504

日時 ▼ 9月28日(日)・11月30日(日)・

12月21日(日) 午後1時～

会場 ▼ 一宮スポーツ文化センター

内容 ▼ 当季雑詠3句を一宮市民俳句教室委員が指導します。

(初心者歓迎)

参加料 ▼ 無料

申込み ▼ 当日直接会場

『秋の市民俳句吟行会』

日時 ▼ 10月10日(金) 午前9時～

行先 ▼ 西尾市歴史公園他

対象 ▼ どなたでも

参加料 ▼ 500円

申込み ▼ 事前に事務局(☎8410013)へ連絡

0013)へ連絡

『市民短歌教室』

【問合せ先】真清短歌会

☎(72)6606

日時 ▼ 10月12日(日)・12月14日(日)

午後1時～

会場 ▼ 一宮スポーツ文化センター

内容 ▼ 真清短歌会委員により実作指導します。(初心者歓迎)

参加料 ▼ 無料

申込み ▼ 当日直接会場

『馬場獅子屋形打囃子保存会 秋祭』

【問合せ先】一宮民俗芸能連盟

☎(84)0013 (以下同じ)

日時 ▼ 10月19日(日) 午後1時～

会場 ▼ 熱田社(千秋町加納馬場)他

内容 ▼ 道行打囃子を演奏しながら獅子屋形を曳き回します。

獅子屋形を曳き回します。

『重吉甘酒祭保存会 甘酒祭』

日時 ▼ 10月26日(日) 午後2時～

会場 ▼ 八幡神社(丹陽町重吉)

内容 ▼ 神前に甘酒と強飯を供え、お神楽を奉納します。甘酒と強飯は参拝者に振るまわれます。

お神楽を奉納します。甘酒と強飯は参拝者に振るまわれます。

『秋の市民短歌吟行会』

【問合せ先】尾西短歌会

☎(45)9638

日時 ▼ 11月5日(水) 午前9時～

行先 ▼ 新美南吉記念館(半田市)他

対象 ▼ どなたでも

参加料 ▼ 2000円(昼食代含む)

申込み ▼ 事前に事務局(☎8410013)へ連絡

0013)へ連絡

『狂俳月例会』

【問合せ先】一宮狂俳壇連盟

☎(45)6702

日時 ▼ 11月8日(土)・12月13日(土)

午後1時～

会場 ▼ 葉栗公民館

内容 ▼ 各自10句持参、互選により優秀作を記録に残します。(初心者歓迎)

参加料 ▼ 無料

『加入団体の催し』欄に情報を掲載しませんか？

このコーナーでは一宮市芸術文化協会加入団体のイベント情報を募集します。発行月3・6・9・12月の前月1日までに、必要事項を任意の様式にて記入の上、事務局まで提出してください。

必要事項 ①行事名 ②団体名 ③問合せ先電話番号 ④日時 ⑤会場 ⑥対象 ⑦参加料 ⑧申込方法 ⑨その他必要事項

提出先 〒493-8511 一宮市芸術文化協会事務局(住所不要) または FAX 0586-86-1809

文化講演会

21世紀を迎えて

入場無料

次代に伝えたい美しい日本の心

平成20年 **10月18日** 土 **13時**～ (開場は30分前)

一宮市尾西市民会館

整理券

入場無料ですが、整理券が必要です。整理券は9月9日(火)より一宮庁舎東玄関受付、尾西生涯学習センター(尾西庁舎)、尾西南部生涯学習センター、木曾川庁舎生涯学習課、各出張所、各図書館、一宮・尾西市民会館、一宮スポーツ文化センターで配布します。

その他

当日、ロビーにて「いちのみや文芸2008」(1冊800円)を販売します。

主催／一宮市教育委員会・一宮市芸術文化協会

第66回 一宮市美術展開催要項

会期▼平成20年11月13日(木)～

16日(日)

午前9時30分～午後5時

(最終日は4時30分)

会場▼一宮スポーツ文化セン

ター(一宮市真清田1-2

1-30)

種目▼日本画/洋画/彫刻・

立体/工芸/デザイン/書

／写真

主催▼一宮市・一宮市教育委

員会

【作品搬入】

11月8日(土)・9日(日)

午前9時30分～午後5時

【出品料】 無料

【出品規定】

未発表作品1種目1点。

中学校卒業以上の年齢の者

で、市内市外は問わない。

【規格】

日本画▼20号以上100号以

内で額入り。

洋画▼20号以上150号以内

で額入り。版画は4号以上

で額入り。

彫刻・立体▼制限なし。

工芸▼制限なし。

デザイン▼A2サイズ以上で

パネル張り。小型はパネル

に構成。ポスターフレーム

可。(ポスター・イラスト

・CG等表現自由)

書▼91cm×91cm(3尺×3

尺)又は176cm×48cm

(5・8尺×1・6尺)以

下。縦横自由。枠張り又は

額装。

規定の用紙に必ず墨書によ

る釈文を添付すること。

写真▼全紙以上でパネル張り。

額不可。ただし、組写真は

半切以上2枚以内。(作品

裏面で固定すること)

審査▼主催者の委嘱審査員に

より、入選作品および入賞

作品を決定する。

展示▼入選作品および入賞作

品を展示する。なお、電気

・動力等が必要とするもの、

他の作品に影響を及ぼす恐

れがあるものなどは、制作

者の意図は反映されない場

合があります。

問い合わせ先▼一宮市教育委

員会生涯学習課 生涯学習

・文化グループ

電話(0586)84100

13

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

(C) ↑ 12ガ* (V) 18 21 | 51 ↑ 31 21 56 90 架 1 朗 邊 54 (C) ↑ 嚙 梶 朗 田 昱 鱗 鉢 邊